

# 全国革新懇ニュース

2016.10月号

(発行日10月10日)  
購読お申し込み ☎03(6447)4334  
年間購読料1820円・送料込

383

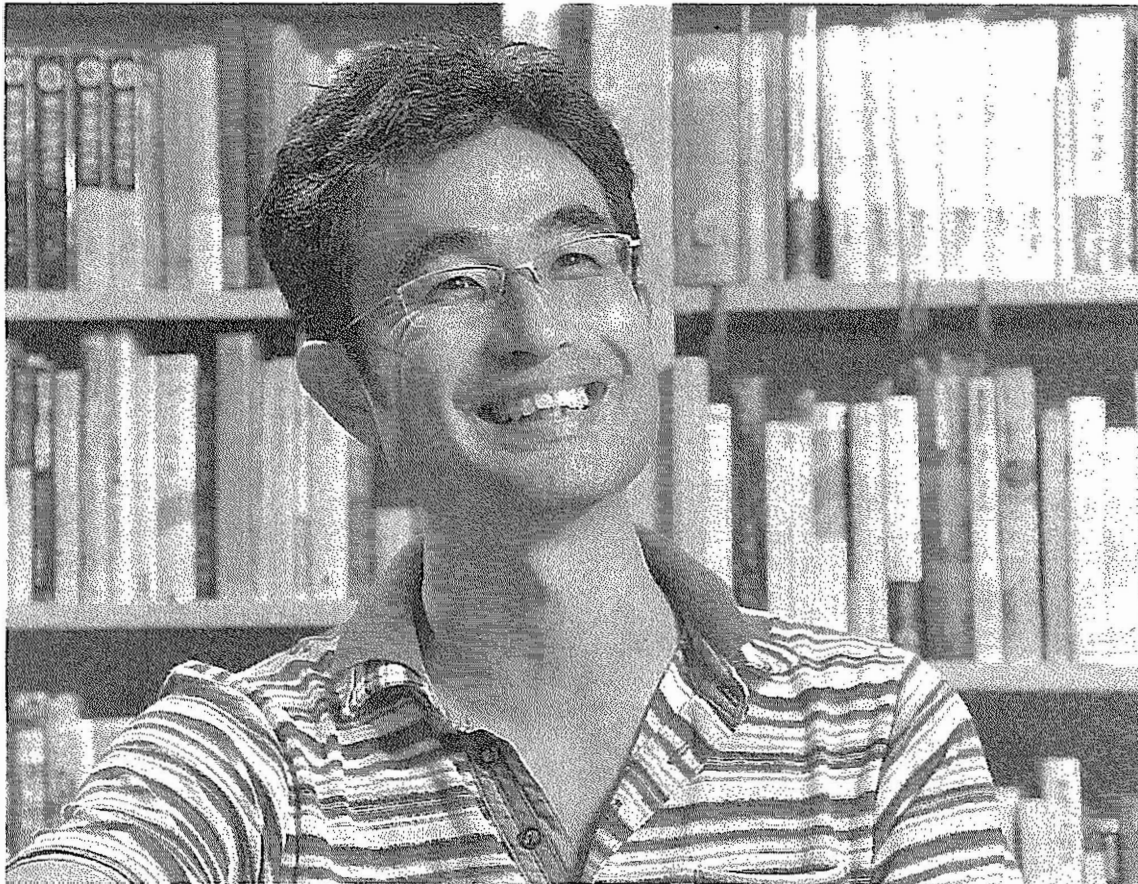
発行所 平和・民主・革新の日本をめざす全国の会  
(全国革新懇) 発行人・乾 友行  
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-7-8 千駄ヶ谷尾津ビル1階  
☎03(6447)4334 FAX03(3470)1185 郵便番号 00170-5-20213  
ホームページ <http://www.kakushinkon.org/> Eメール [zenkoku@kakushinkon.org](mailto:zenkoku@kakushinkon.org)



神罰は黙っている!?  
「辺野古」不当判決  
池田香代子さん ④面

市民と野党の共同の発展を  
めざす懇談会  
○10月22日(土)午後1時～5時  
○都市センターホテル(東京・千  
代田区平河町)  
□主催・全国革新懇

全国革新懇の  
3つの共同目標  
①日本の経済を国民本  
位に転換し、暮らし  
が豊かになる日本を  
めざします。  
②日本国憲法を生か  
し、自由と人権、日  
本主義が発展する日  
本をめざします。  
③日米安保条約をなく  
し、非核・非同盟・  
中立の平和な日本を  
めざします。



撮影・片桐真喜

1976年、北海道旭川市生まれ、島根県横田町(現奥出雲町)出身。京都大学総合人間学部卒業。京大人文科学  
研究所助手、東大農学生命科学研究科講師を経て、現在、京都大学人文科学研究所准教授。農業技術史、ド  
イツ現代史など。著書に『決定版』ナチスのキッチン―「食べること」の環境史(共和国一河台華雄学芸  
賞受賞)『縮の大東亜共栄圏―帝国日本の(緑の革命)』(吉川弘文館)ほか

## 市民とつながり 海を越える 言葉の力

革新懇  
インタビュー

ふじはら  
藤原

たつし  
辰史さん

自由と平和のための京大有志の会・発起人

あの日、9月19日に安保  
法制が「成立」して1年が  
たちました。いま私の中  
で、二重の気持ちが織り重  
なっています。一つは、ど  
んどんとタガが外れていく  
音におびえる気持ち。私の  
知り合いは、沖縄の高江で  
逮捕されました。こんなふ  
つに日本社会がダメになっ  
ていくのか。「残念」「悔  
しい」「より「怖い」「恐ろし  
い」という気持ちです。

まっすぐ発足を確認し、声  
明書をだそうと決めまし  
た。すぐに私が15分ぐら  
いで下書きし、仕上げで  
賛同をよびかけました。

戦争は、防衛を名目に始まる。  
戦争は、兵器産業に富をもたらす。  
戦争は、すぐに制御が効かなくなる。  
戦争は、始めるよりも終わるほうが難しい。  
戦争は、兵士だけでなく、老人や子どもにも災  
いをもたらす。  
戦争は、人々の四肢だけでなく、心の中にも深  
い傷を負わせる。  
精神は、操作の対象物ではない。  
生命は、誰かの持ち駒ではない。

海は、基地に押しつぶされてはならない。  
空は、戦闘機の爆音に消されてはならない。  
血を流すことを貢献と考える普通の国よりは、  
知を生み出すことを誇る特殊な国に生きたい。  
学問は、戦争の武器ではない。  
学問は、商売の道具ではない。  
学問は、権力の下僕ではない。

生きる場所と考える自由を守り、創るために、  
私たちはまず、思い上がった権力にくさびを打  
ちこまなくてはならない。

片方に、うれしい気持ち  
があります。京大有志の会  
は1カ月に1回ほど、読書  
会を開いています。9月は  
中島京子さんの『小さいお  
うち』でした。そこに来ら  
れる市民の方々の話は鋭  
く教えられることが多い。  
また私は、会の活動で知り  
合ったいろんな団体の縁結  
びもしています。市民の力  
が蓄えられている。地下  
でアリが部屋と部屋をつな  
げて巣をつくっていくよう  
に、日本列島の地下水脈で  
市民がつながっていくとい  
う手ごたえを感じます。

声明書をメニューの裏に  
張るレストラン。家の前に  
張り出す人。埼玉の予備校  
講師・山岡信幸さんの「子  
ども語訳」は素晴らしい。  
タンザニア在住の日本人が  
スワヒリ語に訳して現地の  
子どもに読み聞かせた、と  
いう話も伝わってきました。  
た。声明書はいま三十数カ  
国語に訳され、世界に発信  
されています。

参議院選挙では、いろい  
ろの宿題が出てきました。野  
党共闘をどう進めるかもそ  
うですが、いちばんしんど  
い思いをしている貧困層の  
立場に立ち返って政治を考  
えることもそうです。多く  
の人が、ひどい社会の現状  
や日常生活をおかしいと思  
っている。しかし、現状を  
変えてくれるのは安倍さん  
と想う人もいます。私たちが  
「生活を守る」「守る」  
「守る」といいたちがなにに  
対し、自民党の主張は「憲  
法改正」を含め、人の目に  
新しく映るのでしょうか。

京大有志の会は、「新時代  
の自由と平和」の創造を宣  
言しています。「新時代」  
とはなにか。私はこう考え  
ています。私には、「憲法  
9条を守る」「平和を守る」  
という発想がありません。  
日本は戦後、朝鮮戦争やベ  
トナム戦争、イラク戦争な  
どにかかわってきたのでは  
ないか。守るべき平和があっ  
たのか。あったとしても内  
向きの平和ではなかったか。  
「自由」も同様です。  
だから、まだ手にしていな  
い自由と平和を、隣国やつ  
らい立場の人々とともに創  
造していきたい。

「言葉を得てこぼす涙」  
なぜこれほどまでに大勢  
が賛同したのか。私もよく  
分からないのですが、心の  
どこかに声明書と同じよう  
な思いをもつ人たちが言葉  
を得たのかもしれない。  
心の中で渦巻いていたもの  
が言葉になったとき、涙を

私たちが、あせらず地道  
に、「新時代」めざして活  
動を続けていきます。言葉  
の力を鍛えながら。  
(聞き手 卯城公啓)

京大有志の会は昨年7月  
2日、安保法制で切迫する  
状況に押されるように生ま  
れました。この部屋(藤  
原研究室)に同僚3人が集

落とす人が多いですね。い  
ま、嫌韓本や嫌中本などの  
ように、すでに品性の欠  
けた言葉が読まれている。  
それとは異なるしなやかな  
言葉を、人文学の研究者の  
一人として伝えたい。そん  
な自覚がありました。

域でも大学でも身近な課題  
を政治に組み入れてたしか  
っていきたくですね。

「新時代」の創造へ